

第十八回本郷ふじやま公園古民家歴史部会歴史散策(東海道)

平成 19 年 4 月 5 日(木) 京浜急行「神奈川新町」東口改札前 10 時 00 分集合同刻出発 弁当持参。

当日 6 時 25 分の NHK 天気予報降雨率 50 % 以上の時は翌週 12 日(木)に順延します。

行程；京急神奈川新町駅 1 長延寺・土居跡→2 笠^{ノギ}程^{ノギ}稲荷→3 良泉寺→4 能満寺→5 神明宮→6 東光寺→7 金蔵院→8 熊野神社→9 高札場→10 神奈川台場跡→11 成仏寺→12 慶運寺→13 浄瀧寺→14 本陣跡→15 神奈川の大井戸→16 宗興寺→17 権現山(桜で有名昼食弁当)→18 洲崎大神→19 普門寺→20 甚行寺→21 本覚寺→京急「神奈川駅」・「横浜駅」。

一口メモ

「1」神奈川宿(日本橋から 3 番目の宿場・1 番目品川宿・2 番目川崎宿)

徳川家康が慶長 6 年(1601)東海道の宿駅伝馬制度を定め、本格的な街道の整備を始めてから 400 年が経過しました。慶長 9 年(1603)五街道の起点になる、江戸日本橋が架けられ、その後、五街道(東海道・中山道・日光街道・甲州街道・奥州街道)を中心に一里塚や並木なども整備され、橋や宿場などの施設が整っていきました。横浜市内には五街道の一つである東海道が通っていました。その宿場として横浜市内には神奈川町・青木町から成る神奈川宿、保土ヶ谷町、神戸町・帷子町・岩間町からなる保土ヶ谷宿、戸部町・吉田町・矢部町から成る戸塚宿がありました。

神奈川の名の由来、神奈川宿の中の町と西の町の間を流れる小川を上流が何処か不明の意「上無川」(かみながり)と言う。カミナシガワのミとシを略してカナガワと言う様になったとの説。

神奈川宿は東海道有数の景勝地である「袖ヶ浦」のそばにあり、旅人ももちろん、観光客も多く訪れ滞在。最盛期は、近隣宿の 2 倍の人口を抱えたと言う。又、神奈川は安政 5 年(1858)の日米修通商条約締結後、開港場として賑わった宿場。

規模(江戸時代、正徳元年(1711)宿高 1 7 2 7 石 0 3 1 合・家数 1 3 4 1・人口総数 5 7 9 3 (男 2 9 4 4・女 2 8 4 9)・旅籠屋 5 8・本陣 2 脇本陣なし

1・長延寺跡

浄土真宗・現、神奈川通東公園・土居跡、見附跡・オランダ領事館跡

昭和 40 年(1965)迄此处に延長寺が建っていた。開港当時、オランダ領事館に当てられました。また、この辺りは、神奈川宿への江戸からの入口にあたり、公園内の看板の絵図は、街道両脇に土盛され、その高さは 2.5 m その上には竹矢来が設けられていた、土居(防御、検問)です。

2・笠^{ノギ}程^{ノギ}稲荷

祭神、稲倉魂命・祭礼、8 月 8・9 日前後日曜日。天慶年間(938~947)の創建・笠^{ノギ}程^{ノギ}の由来は笠をかぶった人が前を通ると不思議に笠が脱げ落ち、笠脱ぎ稲荷と言われ、後に笠^{ノギ}程^{ノギ}と改められたと言う。

3・良泉寺

真宗大谷派・本尊、阿弥陀如来立像。開港当時、幕府から外国人宿舎を命じられた住職が、屋根をはがし、修理中との口実で断ったと言う。

4・能満寺

高野山真言宗・海運山・古義真言宗高野山宝勝院末・本尊、海中より出現した虚空菩薩。

正安元年(1299)開創、同年 8 月 13 日海中より出現し、土地の内海甚左衛門が発起人となり当時荒宿といった海辺に建立、開山は重運。神奈川宿の神社 6ヶ所の別当寺と有名だった古刹。S20 年戦災。

5・神明宮

オオヒルメノミコト

祭神、大日靈尊・天照大神 祭礼、8月第4日曜日・能満寺に所属していたが明治初め分離独立。

6・東光寺

真言宗・平尾山本願院・本尊、薬師如来＝太田道灌守り本尊。 小田原北条氏家臣平尾内膳の創立、堂宇建立本尊安置。昭和20年5月29日横浜大空襲戦災。

7・金蔵院

真言宗智山派・神鏡山東曼陀羅寺・本尊、阿弥陀如来。 開基は醍醐三宝院始祖勝覚、慶長4年(1599)小田原攻め時住職が出陣し、家康の戦勝を祈願したことから寺領十石の朱印寄進を受け以後徳川家との繋がり強く領事館接収も避けられたと言う。家康手折りの紅梅があったが焼失。

8・熊野神社

祭神国常立尊、伊弉諾尊、伊弉冉尊・祭礼8月17日・神紋左三つ巴・神宝石造大獅子、嘉永年間石工飯島吉六作・江戸中期金蔵院境内、明治初期分離独立。 創建は寛治元年(1087)、醍醐三宝院勝覚僧正6代が、紀伊熊野坐大神を分祀神奈川権現山に勧請、熊野三社大権現と号したのが始まり。江戸時代後期「金川砂子」の「夜宮祭礼」図に神社の賑わいが描かれている。神楽舞、神輿。明治17年郷社列す。社殿は戦後再建・大銀杏古木(300余年名木古木)。

9・高札場 参考基壇w 5md1.5mh3.5m 高札掲示台屋根付き

神奈川地区センター前復原板・神奈川警察署西側付近に有った・明治期伝達手段整い姿を消す。(地区センタートイレ)

10・神奈川台場跡

お台場・当時海に突き出し広さ約8千坪・土砂権現山からの埋立地・1859年、安政6。開港当時大砲が置かれ、港を警備、江戸幕府に建設を命じられ伊予松山藩は、勝海舟に相談し技術指導を受けたと言う。石材は伊豆東海岸小松石を海路運び込んだ、工事は費用6万両、工期1年を費やし完了。

11・成仏寺

浄土宗正覚山・深厚山・本尊、阿弥陀如来坐像・アメリカ人宣教師宿舎跡・宣教医師ヘボン夫妻宿舎。 鎌倉時代、永仁元年(1293)法燈国師開山という。幕末にはヘボン、S・R・ブラウン、ゴープル、バラなどの米国人宣教師たちが滞在、日本におけるプロテスタント宣教発祥地となったが、昭和20年5月29日の横浜大空襲で寺は焼失、当時の面影はない。浦島太郎泪石；竜宮城3年＝300年、石に腰掛け泣いた泪石がある。

12・慶雲寺

浄土宗・本尊、阿弥陀如来立像・フランス領事館跡。 室町時代芝増上寺第3世音譽聖観により開基、浦島丘にあった観福寿寺が慶応4(1868)年の大火で消失したため、浦島伝説に係わる記念物が此の寺にもたらされた。それ以来、慶雲寺は浦島寺とも呼ばれるようになった。本尊は浦島太郎が竜宮城で乙姫様から頂いたという聖観音菩薩像。

13・浄瀧寺

日蓮宗・砂湖山・本尊、十界曼陀羅に釈迦・多宝両如来・イギリス領事館跡・青木本陣当主鈴木家、神奈川商人等の墓。 文応年中(1260~61)妙湖比丘が開基と言う。

〈民話・河童がくれたシャレコウベ〉権現山から野水が滝になっていたこの川に河童が旅人に悪さをして居ると噂が立ち侍が河童を捕まえた。河童は、ある時ウワバミが現れ事主の河童が喰われてしまった、女房の河童は子

供を育てるため悪いことと知りながら迷惑を掛けた、これから悪さはしない、亭主の首を差し出すので許して欲しいと懇願した。侍は哀れに思い許した。其の夜亭主の河童の首が届けられ、河童の悪さは後を絶ったとさ。

14・本陣跡

石井、青木の二本陣。江戸側神奈川石井本陣・横浜側青木本陣が置かれました。本来、本陣は一つ。

15・神奈川の大井戸

お天気井戸・井戸水が増えれば翌日晴れと言う。

16・宗興寺

曹洞宗・開塔山・ヘボン治療所跡・本尊、聖観世音菩薩鎌倉期作。創立年代不詳。宝徳2年(1450)の鎌倉八幡宮関係文書に寺名記される。明治初期ヘボン博士の無料診療所として有名。ヘボン博士は「ヘボン式ローマ字」で知られ、日本最初の和英辞典を完成し、聖書の翻訳等も行い、後に明治学院を創立、我が国教育にも尽くした人。生麦事件での重傷を負ったイギリス人の治療にも当たった事もある。

17・権現山

幕末から明治にかけて山が切り削り取られ、台場や鉄道用地の埋め立に使われた。幸ヶ谷公園や幸ヶ谷小学校の丘、本覚寺の丘などが権現山の跡。古戦場としても知られる。戦国時代関東管領上杉一門が家臣で、ありながら、北条早雲に内通して主君に反旗を翻した上田蔵人の砦がこの山の上。管領方2万の大軍が山上の上田方の砦を包囲し、10日にわたる戦いの後、上田方が落ちた。

18・洲崎大神

祭神、天太玉命、天比理刀売命、素盞鳴尊、大山咋命・祭礼、6月6日～8日・神紋左巴。建久2年(1191)源頼朝が安房国の安房神社を此の地に招いたのが始まり。昔此の神社にあったアハギがなまり、青木町の町名になったと言う。神社の前の道を海側へ、第一京浜に出る辺りが船着き場(神奈川湊)。かつて神輿を神社の海に担ぎ入れ、安房神社の神と対面させる「芸能お浜下り」と言う神事が行われた。

19・普門寺

真言宗智山派・洲崎山・本尊、聖観世音立像・洲崎大神の別当寺・イギリス領事館跡。普門寺は観世音菩薩が多くの人に救いの門を開いている意味。回船問屋紀伊屋三郎兵衛の墓。

20・甚行寺

真宗高田派・真色山清浄之院・フランス公使館跡・本尊、阿弥陀如来・寺宝、親鸞聖人像、聖徳太子像七高僧像、堯秀上人像。明暦元年(1655)の創建、開基は大徳。安政年間(1854~1859)神奈川条約に際し日本最初のフランス領事館に当てられた史蹟。

21・本覚寺

臨済宗・青木山延命院～曹洞宗・青木山本覚寺・アメリカ領事館跡・本尊、地藏菩薩、伝行基作。旧青木城跡に嘉禄2年(1226)創建、開山は千光国師(栄西)。安政6年(1859)～文久2年(1862)当初横浜村(100戸足らずの寒村)に幕府は領事館を用意したが公使ハリスは猛反対神奈川湊が一望出来、船着場にも近く高台の本覚寺となった。山門の一部を多色のペンキを塗りこめられた跡が現在も残っている。

神奈川宿「長延寺跡～本覚寺」

